

〔活動報告〕

「東亜同文書院大学から愛知大学へ」アーカイヴズ展開催報告

日時 2013年11月3日（日）～30日（土）
場所 愛知大学大学記念館

11月3日から30日までの期間、愛知大学大学記念館にて当センター主催のアーカイヴズ展を開催しました。本企画展は、11月3日に行われた豊橋校舎での公演「愛知大学創設者『本間喜一物語』—はじまりの手紙—」とのタイアップ企画であり、これまで全国各地で開催してきた展示会・講演会の中から、2010年度および2013年度に一般公開した史資料展示を各特別展示室にて再現し、アーカイヴズ展として特別公開しました。

「米沢と本間喜一」アーカイヴズ展にて展示した資料は、タイアップした公演に関連したものであったことから、公演をより深く味わえる内容となりました。



2013年度 開催「東亜同文書院大学から愛知大学へ」
「長崎と東亜同文書院大学」



2010年度 開催「米沢と本間喜一」

愛知大学東亜同文書院大学記念センター／文部科学省 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

「東亜同文書院大学から愛知大学へ」アーカイヴズ展

愛知大学では、大学記念館（登録有形文化財）にて、本学ルーツ東亜同文書院大学、山田良政・純三郎兄弟、愛知大学史に関する常設展示をしております。
このたび「愛知大学創立者『本間喜一物語』—はじまりの手紙—」が上演されることとのタイアップ企画として、これまで展示会・講演会にて公開した史資料をアーカイヴズ展として特別公開します。

- 2010年度 山形県米沢市／「米沢と本間喜一」
- 2013年度 長崎県長崎市／「長崎と東亜同文書院大学」

※この機会にぜひ愛知大学記念館にお越しください。
入館は無料です。

長崎と東亜同文書院大学

（2013年10月5、6日 長崎県美術館）

愛知大学東亜同文書院大学記念センター／文部科学省 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

東亜同文書院大学から愛知大学へ
「はじまりの手紙」／長崎と東亜同文書院大学

東亜同文書院大学とは
長崎と東亜同文書院

長崎展示会・講演会での展示（パネル「一般」）

米沢と本間喜一

（2010年8月28、29日 山形県米沢市東部コミュニティセンター）

米沢市 米沢市立長崎歴史博物館
米沢市 米沢市立本間喜一記念館

本間喜一「一般に教える」
「東亜同文書院大学」

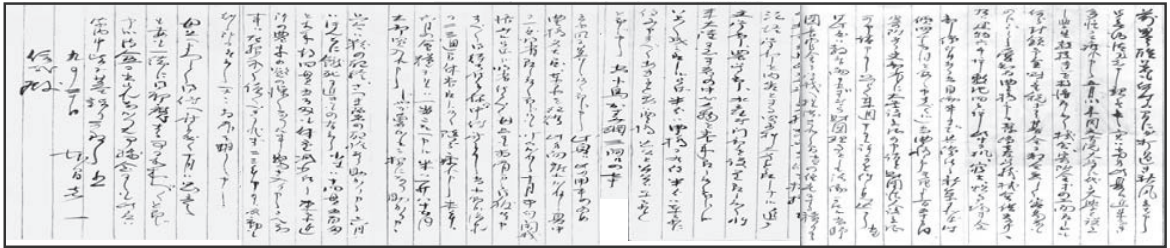
本間喜一（長崎別中央）と学生の集合写真（1940年代）
（配）

2013年11月3日（日）～30日（土）
開催時間：10:00～16:00
休館日：日曜日（11/3を除く）、月曜日、祝日、11/15

豊橋駅乗り換え／豊橋鉄道南線
「新豊橋」駅→愛知大学前駅下車（6分）
※大学記念館まで徒歩5分

愛知大学東亜同文書院大学記念センター
〒441-8522 愛知県豊橋市町田町1-1
TEL: 0532-47-4139 FAX: 0532-47-4196
E-mail: Touhou@aiuh.ac.jp
http://www.aiuh-u.ac.jp/orc/index.html

公演「愛知大学創設者『本間喜一物語』—はじまりの手紙—」は、事前に各新聞に告知が掲載されたこともあり、愛知大学関係者や同窓生だけでなく、一般の方も多くご来場いただくことができ、会場は満席に近い状態となりました。



(上)本間喜一が甥と母に宛てた書簡
(右)書簡を解説した展示パネル

愛知大学設立直前に、本間喜一が甥と母に宛てた書簡

2009（平成21）年10月、中置郡川西町玉庭の本間喜一一家の中から、たいへん貴重な資料が発見された。それは愛知大学設立直前の1946（昭和21）年9月20日付の、本間喜一から甥の小池信哉氏宛ての書簡（実母にへのものでと言ってもよい）で、愛知大学設立に向けた強い決意を表している。その書簡の主な記述（太字）を見てみよう。

まず「この夏は近來なき多忙にて疲れ申候、五月以來同文書院大学に代る大学を設立し、学生教授達を救済致し度く」とあるが、創立後しばらく、「愛知大学と東亜同文書院とは無関係」との声もあったことがある。しかし本間喜一は、1952年の国会証言においても、「私は東亜同文書院に代わるような愛知大学を創立した」と明確に述べている。敗戦後海外から引き揚げてきた、東亜同文書院大などの教員・学生の救済は、同僚や学生、ひいては国家への愛情のあらわれである。

次の項では、豊橋市やその他地域の人達の寄附に感謝するとともに、戦後のインフレ収束措置策などにより「募金に都合悪く、容易なものに無之（これなく）候」とあり、親せき筋にあたる林毅陸（元慶応義塾大学総長・初代愛知大学長）と共に慶応の三田会を頼って募金集めに奔走し、「近來なき多忙にて疲れ」という。

続いて「十月開校」「來年四月法経学部、そして文学部、農学部、水産専門部を設置致し度く」「將來大陸に志す者の中心人物を養成致し度く存じ候」とあるのは、東亜同文書院の精神を継承しているものであり、同時に地域の文化向上と、農産物の生産や、水産物の加工に適する東三河地方（愛知県東部）の特徴を見抜いていたのであろう。そのために、「あき子（長女辰子）と妻は豊橋、忠彦（長男）と昌公（次男昌二郎）は東京」に住まわせる覚悟と、一家の役割分担までを決め、起業家・創業者の熱意をもって大学設立に取りかかったことがうかがえる。

また、当時の経済・食糧事情について、「米は一升八十五円」「只今は粉の配給、さつま薯の配給あり助かり」「六月はほんとに餓死に近きもの」「小生は十四貫五百匁（約48kg）と相成約四貫五百匁（約15kg）も体重減少」としたと告白するとともに、「世界の食糧事情改善されねば、昔の安い米も小麦も輸入し得べく、都市生活者は、本年の様な愚な事許り繰り返す事有之（これある）まじくと存じ申候」と、農業や経済政策についての意見を述べている。

最後に、「いくら世は末世とは云え、結局道義に依って立つ事が大切に候。最後に幸福を來すものは利己に非ず、道義と確信仕候。小生の此度の大学設立の如き若し成功するとすれば、決して金やなんかの御座に非ず、専ら小生五十年は清貧に甘んじ正義の道を進んで來た跡を認められた結果と存じ申候。目先の小さな利益許り追かける者の到底なし遂げ得る所に無之候」と結んでいる。



本間イズムの原点を舞台化！ 2013年度 愛知大学 ホームカミングDAY記念公演

愛知大学創設者 『本間喜一物語』 —はじまりの手紙—

2013年11月3日(日) 観劇無料

第1回目：(14時開演) 同窓会館小講堂にて
愛知大学 同窓会館 記念会館小講堂にて

第2回目：(16時開演) 同窓会館小講堂にて
愛知大学 同窓会館 東亜同文書院大学記念センター 同窓会館小講堂にて

出演：中野辰子（演劇）・妻（演劇）
監：殿岡辰子（演劇）・武井義典（愛知大学同窓会）

本間喜一と愛知大学
Cast
Staff

愛知大学校文センター 愛知大学 愛知大学同窓会